

# 札幌学院大学

商学部	人文学部	法学部	商学部
商学科	人間科学科	法律学科	商学科
経済学科	英語英米文学科		

Sapporo Gakuin University

# 学園広報

1989. 11. 20 No.44

編集・発行 学校法人 明和学園  
札幌学院大学 庶務課  
〒069 北海道江別市文京台11番地  
電話 (011)386-8111

## 学問の秋・芸術の秋の一夜

### 第13回学術講演会「講演と音楽の夕べ」



左から大林修子・高垣美加・土田英順の各氏



講演する山島正男教授

恒例となった第13回学術講演会「講演と音楽の夕べ」が、九月二十九日共済ホールにおいて開催された。学問の秋、芸術の秋にふさわしい催しで、集まった聴衆を魅了した。

秋の気配が次第に色濃くなってきた九月二十九日、本学の恒例の学術講演会「講演と音楽の夕べ」が共済ホールにおいて開催された。今回の来聴者は約六百三十名で、前年を越える大盛況となった。十三回目を数える今年の講演会では、法学部の山島正男教授が

### 国際化の一層の進展に向けて

国際化時代の進む中で、本学は、本年五月ベントリー大と姉妹校関係提携への第一歩を踏みはじめた。ベントリー大は、アメリカ・マサチューセッツ州のボストン近郊にあり、会計学を中心とした商学分野での教育・研究に伝統をもつ学部、大学院あわせで約七千四百名の学生をかかえる大学である。

### 平成三年四月開設予定 社会情報学部の設置認可申請受理される

去る七月二十九日、本学の環である社会情報学部(定員二百人)の設置認可申請書を文部大臣へ提出受理された。文部省は八月十日「大学設置・学校法人審議会(以下審議会)に平成三年四月開設予定の申請の本案を含めた全国二十九大学・短大について新設大学・短大・学部学科増等諮問した。

体育センターは昭和六十三年に完成して以来、早一年半が経過しようとしている。この建物は、総合グラウンド(第二キャンパス)に位置し、正課授業の円滑な運営の確保並びに課外活



体育センター外観



トレーニングルーム

## 体育センター

### 総合グラウンドの拠点

### 健康づくりから筋力トレーニングまで

ウエイトリフティング用のバーベルの他、コンビネーションマシンと呼ばれる

筋力アップ用の器具がそろりとして設置されており、体育の授業以外に体育系のサークルの筋力トレーニング、一般学生・教職員の健康づくりに一役買っている。また、年に一、二度、学生生活に役立つ。中には朝シャンに利用している学生もいる。

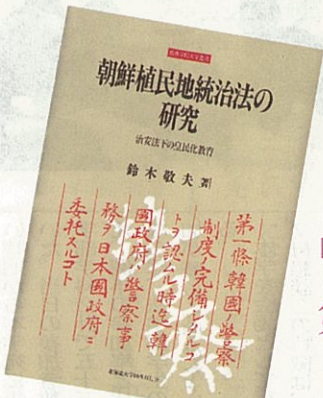
この他に、図書コーナー、ミーティングルーム等も備えており、屋外体育施設の中心として、他大学等から集まっている。学生諸君が、これらにより有効に利用し、課外活動等のさらなる発展を期待するところである。

## キャンパス・レポート

社会情報学部は、時代の要請に応えるべく構想されたものであり、今日の情報社会の

### 平成2年度入試日程

学部・学科	出願期間	試験日	試験場	合格発表日
法学部法律学科 商学部第二部商学科 (第一期試験)	1月10日(木)	2月8日(木)	本学 東京 大阪 青森	2月23日(金)
商学部第一部経済学科 人文学部人間科学科 人文学部英語英米文学科 商学部第一部商学科	1月25日(木) (必着)	2月9日(金)		
		2月10日(土)		
商学部第二部商学科 (第二期試験)	3月5日(月) 3月16日(金) (必着)	3月19日(月)	本学	3月20日(火)
■推薦入学				
学部・学科	出願期間	選考日	試験場	合格発表日
商学部第一部商学科 法学部法律学科	11月13日(月)	12月8日(金)	本学 東京 青森	12月16日(土)
商学部第一部経済学科 人文学部人間科学科 人文学部英語英米文学科 商学部第二部商学科	11月24日(金) (必着)	12月9日(土)		
■社会人入学(人文学部人間科学科)				
出願期間	試験日	試験場	合格発表日	
11月13日(月)	12月9日(土)	本学 東京 青森	12月16日(土)	
11月24日(金) (必着)				



### 『札幌学院大学選書』第1号の刊行を祝福して

—ユニークで意義深い労作—

中野 徹三 (人文学部教授・本学  
学会総務幹事代表)

朝鮮人民に対する苛酷な植民地支配が、とりわけ教育の相面でいかに発現し、貫徹されたかを、日本と韓国の諸研究のみならず、当時の現地諸資料にも接して解明した、ユニークで意義深い労作である。本書が完成するためには、度重なる訪韓を通じての、氏と韓国の法曹界との長い学問的交流の過程が必要であった(このことは、氏が昨年、日本人法学者としてはじめて、韓国の大学から法学博士の学位を授与されたところにも、雄弁に示されている)。幼少期をソウルに送った氏が今は亡き御両親と朝鮮植民地統治法のもとで受難した朝鮮民衆に對して「ささげた本書が、本学の在學生、同窓生はじめ、広く日本と韓国の国民に迎えられ、味読されることを、願ってやまない。あわせて、本書選書の今後の発展について、皆さんの暖かいご支援を心から期待したい。

野からすでに多くの期待が寄せられている。学部の詳しい内容については後日報告の予定) 新学部開設に向け、全力を傾けてまいり所存であるが、皆様の今後とも一層のご支援をお願いしたい。

目「英米事情II」として、カリフォルニア大学デービス校への研修が昭和五十八年以來おこなわれてきており、これまで約百余名の学生が参加してきた。こうした貴重な経験、実績をふまえて、語学(英語)文化関係の単位認定を伴うベントリー大学での学生海外研修プランを、来年度開始を目指して検討を進めている。

また、研究交流のきっかけとして、本学からの来年度海外研修予定教員のベントリー大学への派遣がたかまつてきている。ベントリー大学との大学間交流の具体化を通して、本学の国際化という課題の一層の進展をそれぞれの場で考えてゆきたい。

本学法学部の鈴木敬夫氏の著書「朝鮮植民地統治法の研究」(北海道大学図書刊行会が、「札幌学院大学選書」の第一号として、八月末に刊行された。札幌学院大学(当時)開学以来(〇余年、共に辛酸を嘗めてきた友人の一人として、また、今回選書の審査と刊行にかかわった者として、心からのお喜びを申し上げたい。「札幌学院大学選書」とは、本学教員のすぐれた創造的研究の発展を励ますため、若手学長の創刊の辞「をお借りするならば、「北方文化」については世界文化に寄与しうるであろう書物」たりうる研究を、大

# 芸術、文化にふれる

## 札幌学院大学の催し



こころのふれあい深まる

### 「講演と音楽の夕べ」

第3回函館市民講座

第三回函館市民講座「講演と音楽の夕べ」が、九月四日 函館市民会館小ホールを会場に、開催された。前日の豪雨で、来聴者の出足が心配され、当日は爽やかな青空が



講演する鮫島和子教授

のぞき、二百七十名の参加者があった。まず、本学の鮫島和子商学部教授が「いま地球で何が起きているのか」と題して、オゾン層の破壊、酸性雨、地球の温暖化、地球の砂漠化、熱帯林の減少、海洋汚染、有害廃棄物の影響、放射能など、次々と問題が起きているが、どうか私達の毎日の生活に

環境保全のための様々な取り組み等を紹介して運動への参加をよびかけた。鮫島教授自身が、長年、消費者運動に携わってきただけに、説得ある内容であり、聴衆も熱心にききこんでいた。一方、音楽は、藤井一興氏(ピアノ)と大谷康子氏(ヴァイオリン)による演奏で、ドボルザーク「ソナチネ・ト

### 西ドイツにおける労働協約の自律性

#### ドルユーゴス教授迎えて文化講演会

本学では、十月二十日、中央大学国際交流センターの招聘で来日中の西ドイツ・ベルリン自由大学教授、経営経済学博士、ギンター・ドルユーゴス氏を迎えて文化講演会を行った。講演は、本学の教職員、学生および一般社会人約百五十人が参加し、本学の



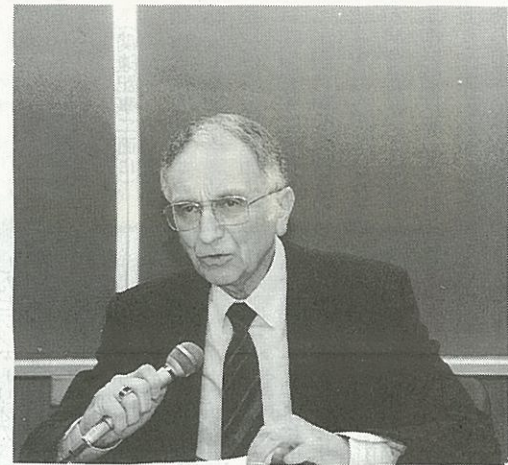
北海道の現代芸術をめぐる1週間

### 「北海道文化論」人文学部公開講座

本年度の総合テーマは「北海道の現代芸術」であり、今年度本公開講座も十回目に当り、出版は八冊目になる。これだけ継続的に蓄積されてきた企画でもあり、それなりの社会的評価を得ていると思われ、本年度の総合テーマは「北海道の現代芸術」であり、今年度本公開講座も十回目に当り、出版は八冊目になる。



本学の文化講演会も近年国際化に向けて着実に歩みだしている。本学が研究教育の国際化に向けて着実に歩みだしている。本学が研究教育の国際化に向けて着実に歩みだしている。



講演するドルユーゴス教授

### ビール戦争を語る

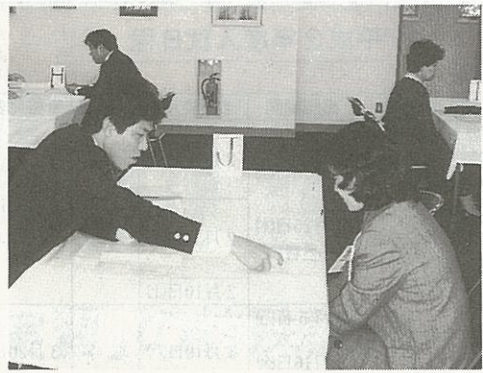
89年度商学特別講義



松浦晴雄氏の講義

北海道新聞八月五日付夕刊「経済スペシャル」で紹介されているので、お気付きの方もいらっしゃると思う。本年の商学特別講義は「ビール戦争」に焦点を当て、「市場成熟」時代の商品開発と販売戦略「ビール業界の新しい競争構造を分析する」というテーマで二社をお招きした。九月四日から九日にかけて連夜行なわれた講義はタイムリーなテーマであるためか、学外からの聴講も多く、関心の高さを示していた。

本年度のテーマは、文学関連の講座を除くと欠如していた芸術の分野を探りあげることになり、コメンテーター・司会担当の杉山吉弘人文学部教授の下で企画の具体化がなされた。まず「現代」芸術の領域に限定された。また採りあげる芸術分野では、美術・舞踊・彫刻・音楽の他に、特に建築と映像が重視された。他にも採用すべき分野は多々あるが、それは次の企画を待たせたい。



熱心に説明を聞く父母

### 年々高まる父母の期待 父母懇談会終る

今年度で、第十二回目を迎える父母懇談会は、六月の地方会場(室蘭、苫小牧、青森)での開催に引き続き、函館での開催に引き続き、秋空の晴れ渡る十月七日に本学を会場として行われた。この最近の高出席率を反映して、昨年の参加希望者を上回る数の出席申込みが、まだ早い時期から本学宛に集まっていた。当日の参加者数は、全学部学科合計で五十五名を数え、例年の参加率と比較するならば、法学部学生の父母参加が著しく伸びたことにな

げの時期に当たる。特に商学部学生においては、「留置き制度」(第二学年から第三学年へ進級する際に、五十単位以上の修得単位数が必要とされ、到達できない者は第二学年をもう一度やり直すこととなる。)と密接に拘わる学年とも言える。つまり、学業成績のみならず、課外活動・クラブなどを含め、広い意味での大學生生活を見直す最良の時期に懇談会を行うこととなる。今回の懇談会に参加された父母の方々からのアンケートには、本学に対する熱意ある意見・要望が多く寄せられた。また、本学の近郊より参加された父母の方々には、その多くが自宅通学生を抱えているが、意外にも地方からの一人暮らしをしている学生と同様に子供の動向や大學生生活などに関する情報に乏しいことも推察された。ゆえに、本学学生の個性や能力をできるだけ伸ばしてゆくに、大学と学生、それにその父母を囲んだ懇談会の実施がさらに大切になると判断される。

#### 新任者

平成年 十月一日付就職  
大沢俊一 助教授

#### 退職者

平成年 八月三十一日付退職  
水島朝穂  
平成年 十月三十一日付退職  
友成久



経済学担当  
平成年名古屋大学

# 好調な'89就職戦線

平成元年度の就職戦線は、既に終盤を迎えた観がある。企業の求人意欲は前年度にも増して旺盛で、求人数は三年連続、記録を大幅に更新、内定報告数も近年に例を見ない伸びを示している。

## 早期化した就職戦線

今年の就職戦線はスタート前から緊迫していた。売り手市場と言われた前年度に続いて、当初から、空前のといふ言葉が付けられていた。就職協定が一部改定され八月二十日会社説明会・個別訪問解禁、十月一日採用内定開始とされたものの、危機感を伴った企業の求人意欲は、この「枠」を眼中のものとしてず行動となって現れた。

就職部では、三年次後期の十月下旬から就職指導に取り組んだ。四回にわたる全体ガイダンスのほか、学部別ゼミ別、体育会や女子学生対象のガイダンス、YG検査、総合就職テスト、また各種業界から講師を招いての就職基礎

## 二人に一人が上場・優良企業に

採用内定報告のペースも例年にならぬ早さで、積極的な学生は企業に接触すれば「即内定」といったケースも珍しくなく、八月末には各学科とも五〇％以上が内定、十月末までには民間企業を志望して行

## 記録的伸びの求人状況

求人の出足は予想どおり極

動した学生の殆どが内定を得るといふ状況だった。内定企業の内容も質的にグンと向上、二人に一人が上場・優良企業に就職する見通しである。また、十一月中旬に発表

## 内定企業のうち 目につく新開拓企業を挙げると

アシックス、浅野スレート、伊藤ハム、岡三証券、カブトデコム、京樽、北日本通信建設、光世証券、三協アルミニウム工業、三晃金属工業、資生堂、大正製薬、大成建設、第一火災海上保険、大和冷機工業、塚本商事、中道リース、野崎印刷紙業、富士通、松村組、山一證券、アイシーアイ、フアーム、オーディオテクニカ、極東、クオレ、シーイー

た、強い求人意欲を反映して前年以上に重複内定が目立ち、この処理で混乱するケースが散見されたが、ある程度避けられない一面があるにせよ、企業を意欲した十分な対応を心がける配慮が求められる。明年度も今年以上の激しい展開が予想されるが、将来に備えてこの数年を大切に扱いたいものだ。

## 主な就職内定企業

建設業 川田工業、新菱

冷熱工業、積水ハウス、大豊建設、大和ハウス工業、地崎工業、ナフコシステム、日特建設、北海道機械開発、三友工業、新日本土木、日成ビルド工業

「製造業」伊藤園、上島珈琲、京食、千秋庵製菓、西山製菓、日糧製パン、ニッカウオースキー、日東食品製造、日本清酒、福山製菓、丸大食品、よつ葉乳業、小杉産業、ゴードルワイン、桜屋商事、鈴乃屋、ミカレ、共同印刷、エスエス製菓、キッセイ薬品工業、グレン製菓、サント

ア新薬工業、大鵬薬品工業、大洋薬品工業、常盤薬品工業、鳥居薬品、日本クラクラ、日本シーリング、日本臓器製薬、日本ロシユ、フナイ薬品工業、マルホ、わかも製菓、住友石炭製薬、新日軽、クリナップ、三洋工業、タカラスタンダード、マルゼン、日本タイプライター、フジキン、タイプライター、三菱電機、金門製作所、インテリアセンタ、フランスベッド、合同容器、マドラス、日本高圧コンクリート、河合楽器製作所、ナカ工業、吉田工業

「卸・小売業」イズミヤ、イトヨーカ堂、いなげや、川徳、ジョーカ、生活協同組合札幌市民生協、西武北海道西友、長崎屋、北雄ラッキー、北海道ダイエー、北海道ニチイ、棒三森屋、ラルス、石黒、ホーマ、札幌トートセンタ、定鉄商事、ホクホート、ホクレン商事、北海道ヒバホーム、松崎、青山商事、小林商事、さか美、鈴丹、タカキュー、大松、トック、東栄、東京ますいわ屋、はまや、ブルイグラス、やまもと、オグラ、杉野商事、高橋水産、仁木島商事、日清医療食品、北酒連、北海道酒類販売、丸果札幌青果、秋山愛生館、キョーリン、果品、スズケン、真鍋食品、モロコ、北島、ニトリ、リリア、カワ、キャノンコピア販売、北海道リコ、ミノルタ事務機販売、札幌トヨタ自動車、札幌トヨタ販売、札幌日産モーター札幌販売、日産レンタカー札幌販売、北海道マツダ、二札幌販売、北海道マツダ販売、今井金商、エービーシー商会、岡三興業、勝木石油、北硝子、北村化学産業、キムラ、キヤノン販売、クワザワ、光洋無線電機、佐渡島、シャープエレクトロニクス島

「金融・保険業」アイフル、札幌銀行、荘内銀行、東京相互銀行、北洋銀行、北海道銀行、北海道拓殖銀行、旭川商工信用組合、帯広信用組合、北見信用組合、共同信用組合、札幌信用金庫、札幌中央信用組合、空知信用金庫、日高信用金庫、北海信用金庫、留萌信用金庫、オホーツク・ジャックス、札幌信用販売、ジャックス、セントラルファイナンス、ダイエーリアルティ、日専連札幌支店、マツダ・クレジット、三菱電機クレジット、ライフ、エス証券、三洋証券、新日本証券、高木証券、東宝証券、山根証券、ユニバーサル証券、朝日生命

「教育・マスコミ・公益サービス業」協同広告、ピールセンター、総合法令、日刊スポーツ新聞社北海道本社、北海タイムズ社、アイネ社、ジャパンシステム、ディエ、日本プロセッサシステム、日本インフォメーション、エンジニアリング、日本エス・イー、日本システムディベロップメント、日本電業センター、富士通東北海道システムエンジニアリング、北海道電子計算センター、朝日トラベルエージェンシー、三井観光開発、名鉄観光サービス、釧路河野開発公社、ホクレン農業協同組合連合会、北海道漁業協同組合連合会、札幌市農業協同組合、小林リース、西尾レントオール、日興興業、納久復員

「建設業」川田工業、新菱

冷熱工業、積水ハウス、大豊建設、大和ハウス工業、地崎工業、ナフコシステム、日特建設、北海道機械開発、三友工業、新日本土木、日成ビルド工業

## キャンパス見学会 来てよかった!

キャンパス見学会は、本学への強い関心と入学問い合わせに對して、直接大学を見学し、また相談する機会を作ろうと、受験生・父母を対象に行っているが、今回の開催で二回目となった。本年は、九

月二日、本学A・B館において行った。参加者は、百四十七名(二十八校)で、昨年に比べて急増した。当日は、はじめに全体説明があり、さうして、受験生・父母を対象に行っているが、今回の開催で二回目となった。本年は、九

「キャンパス見学会」の参加者は、志望学科の調査も行っている。人数の多い順に並べると、

生六十五名、「高校内の掲示ポスター」二十九名、「チラシ」十九名であった。高校別の参加人数は、札幌厚別高校二十一名、札幌稲葉高校十一名、札幌丘珠高校九名など、また、神奈川県の参加者もいた。本年度より、キャンパス見学会の直前に、見学会の広報を主目的として、ポスター、チラシを持参の上、前述の市内三つの高校をはじめ、二十四校を巡回した。

「キャンパス見学会」の参加者は、志望学科の調査も行っている。人数の多い順に並べると、

生六十五名、「高校内の掲示ポスター」二十九名、「チラシ」十九名であった。高校別の参加人数は、札幌厚別高校二十一名、札幌稲葉高校十一名、札幌丘珠高校九名など、また、神奈川県の参加者もいた。本年度より、キャンパス見学会の直前に、見学会の広報を主目的として、ポスター、チラシを持参の上、前述の市内三つの高校をはじめ、二十四校を巡回した。

生六十五名、「高校内の掲示ポスター」二十九名、「チラシ」十九名であった。高校別の参加人数は、札幌厚別高校二十一名、札幌稲葉高校十一名、札幌丘珠高校九名など、また、神奈川県の参加者もいた。本年度より、キャンパス見学会の直前に、見学会の広報を主目的として、ポスター、チラシを持参の上、前述の市内三つの高校をはじめ、二十四校を巡回した。

生六十五名、「高校内の掲示ポスター」二十九名、「チラシ」十九名であった。高校別の参加人数は、札幌厚別高校二十一名、札幌稲葉高校十一名、札幌丘珠高校九名など、また、神奈川県の参加者もいた。本年度より、キャンパス見学会の直前に、見学会の広報を主目的として、ポスター、チラシを持参の上、前述の市内三つの高校をはじめ、二十四校を巡回した。

生六十五名、「高校内の掲示ポスター」二十九名、「チラシ」十九名であった。高校別の参加人数は、札幌厚別高校二十一名、札幌稲葉高校十一名、札幌丘珠高校九名など、また、神奈川県の参加者もいた。本年度より、キャンパス見学会の直前に、見学会の広報を主目的として、ポスター、チラシを持参の上、前述の市内三つの高校をはじめ、二十四校を巡回した。

生六十五名、「高校内の掲示ポスター」二十九名、「チラシ」十九名であった。高校別の参加人数は、札幌厚別高校二十一名、札幌稲葉高校十一名、札幌丘珠高校九名など、また、神奈川県の参加者もいた。本年度より、キャンパス見学会の直前に、見学会の広報を主目的として、ポスター、チラシを持参の上、前述の市内三つの高校をはじめ、二十四校を巡回した。

生六十五名、「高校内の掲示ポスター」二十九名、「チラシ」十九名であった。高校別の参加人数は、札幌厚別高校二十一名、札幌稲葉高校十一名、札幌丘珠高校九名など、また、神奈川県の参加者もいた。本年度より、キャンパス見学会の直前に、見学会の広報を主目的として、ポスター、チラシを持参の上、前述の市内三つの高校をはじめ、二十四校を巡回した。

生六十五名、「高校内の掲示ポスター」二十九名、「チラシ」十九名であった。高校別の参加人数は、札幌厚別高校二十一名、札幌稲葉高校十一名、札幌丘珠高校九名など、また、神奈川県の参加者もいた。本年度より、キャンパス見学会の直前に、見学会の広報を主目的として、ポスター、チラシを持参の上、前述の市内三つの高校をはじめ、二十四校を巡回した。

生六十五名、「高校内の掲示ポスター」二十九名、「チラシ」十九名であった。高校別の参加人数は、札幌厚別高校二十一名、札幌稲葉高校十一名、札幌丘珠高校九名など、また、神奈川県の参加者もいた。本年度より、キャンパス見学会の直前に、見学会の広報を主目的として、ポスター、チラシを持参の上、前述の市内三つの高校をはじめ、二十四校を巡回した。

生六十五名、「高校内の掲示ポスター」二十九名、「チラシ」十九名であった。高校別の参加人数は、札幌厚別高校二十一名、札幌稲葉高校十一名、札幌丘珠高校九名など、また、神奈川県の参加者もいた。本年度より、キャンパス見学会の直前に、見学会の広報を主目的として、ポスター、チラシを持参の上、前述の市内三つの高校をはじめ、二十四校を巡回した。

生六十五名、「高校内の掲示ポスター」二十九名、「チラシ」十九名であった。高校別の参加人数は、札幌厚別高校二十一名、札幌稲葉高校十一名、札幌丘珠高校九名など、また、神奈川県の参加者もいた。本年度より、キャンパス見学会の直前に、見学会の広報を主目的として、ポスター、チラシを持参の上、前述の市内三つの高校をはじめ、二十四校を巡回した。



現在マンハイム大学となっているマンハイム宮殿

## マンハイム大学の研究教育(上) 古城街道の出発点マンハイムとマンハイム大学

商学部教授 藤永 弘

一九八八年八月より一年間、西ドイツのマンハイム大学に、在外研究員として研究に従事する機会に恵まれました。マンハイム大学は、ライン河とネッカー河の合流地点に位置する人口約三十万人の大都市で、この両河の合流地点と河沿いの多くの文化に接すると共に、一九九二年E.C域内市

場統合に向けてのE.C諸国の動きを直接見聞することもできました。これらのことは、各種の機会を得て書くことにし、本紙ではマンハイム大学の研究教育について紙数の許す範囲内で書くことにします。

西ドイツのマンハイムは、ライン河とネッカー河の合流地点に位置する人口約三十万人の大都市で、この両河の合流地点と河沿いの多くの文化に接すると共に、一九九二年E.C域内市

場統合に向けてのE.C諸国の動きを直接見聞することもできました。これらのことは、各種の機会を得て書くことにし、本紙ではマンハイム大学の研究教育について紙数の許す範囲内で書くことにします。

西ドイツのマンハイムは、ライン河とネッカー河の合流地点に位置する人口約三十万人の大都市で、この両河の合流地点と河沿いの多くの文化に接すると共に、一九九二年E.C域内市



当別高校のPTAの方々

## PTA研修視察で来学

北星学園新札幌高校 当別高校 旭川南高校

六月二十四日、北星学園新札幌高校のPTA文化担当の阿部先生をはじめ三名の方々が来学された。これは「北星新札幌PTA新聞」の「私学を考える」特集記事の取材のためである。

当日は、坂井広報課部長の両校とも、若子学長から本学の沿革を含む挨拶があり、稲村教務部長から学部・学科の実態、就職の状況等を、稲村教務部長から学部の特色と大学紹介、坂井広報課部長から最近の入試の動向について説明を聞いた後、施設見学(IL・視聴覚室、博物館資料室、図書館、電子計算機センター、情報処理教室等)を行った。引き続き建

築記念館で食事をとりながら、恵まれた教育環境・施設で学生生活を送ることのできる学生についての感想をながやかに語り、次の訪問校へ向かった。

六月二十四日、北星学園新札幌高校のPTA文化担当の阿部先生をはじめ三名の方々が来学された。これは「北星新札幌PTA新聞」の「私学を考える」特集記事の取材のためである。

当日は、坂井広報課部長の両校とも、若子学長から本学の沿革を含む挨拶があり、稲村教務部長から学部・学科の実態、就職の状況等を、稲村教務部長から学部の特色と大学紹介、坂井広報課部長から最近の入試の動向について説明を聞いた後、施設見学(IL・視聴覚室、博物館資料室、図書館、電子計算機センター、情報処理教室等)を行った。引き続き建

築記念館で食事をとりながら、恵まれた教育環境・施設で学生生活を送ることのできる学生についての感想をながやかに語り、次の訪問校へ向かった。

六月二十四日、北星学園新札幌高校のPTA文化担当の阿部先生をはじめ三名の方々が来学された。これは「北星新札幌PTA新聞」の「私学を考える」特集記事の取材のためである。

春から好調なスタート

まさに大躍進!

サッカー部 二部リーグ昇格

キャンパスライフ



第13回総理大臣杯トーナメント道大会(赤いユニホームが本学)

伝統の大会「道地区体」で初の総合優勝に輝く!

第三十六回(平成元年)年度北海道地区大学体育大会(地区体)は、七月七日から九日までの日程で開催された。この地区体は、北海道の国公立・私立大学、短期大学を網羅した競技大会であり、国...

着実に力をつけて

アメフト 学生選手権、準優勝

着実に力を延ばしつつある地位にあり、今年も学外コロシアムアメリカンフットボール部の指導、強化合宿等でチームは、学生リーグでは、部のムックりに励み、好成績を残...

初戦から順調に勝ち進み優勝。そして常勝チーム戦式庭球が手堅く優勝を決めた。この三種目での優勝をはじめ、剣道・バドミントン・弓道(女子)の三種目が準優勝...

第19回 大学祭

熱気に包まれたフェスティバル

ゼミミ 活動研究の成果発表

第十九回を迎えた大学祭が十月七日から十日までの四日間にあわせて開催された。例年どおり、A・B館には各サークル、ゼミナール有志等による活動・研究の成果を発表する会場が、一・二号館には模擬店、そして中央ロビー、一号館前には露店が立ち並び祭りらしさが溢れていた。



大学祭のラストを飾ったレベッカ

また、九日は昨年に引き続き講演会が開催された。今回は、プロレスラーの前田日明氏を講師として迎え、「デンジャラス・ロードの軌跡」というテーマで講演が行われた。会場の大教室は、立席も出るほどの聴衆が...



3大学定期戦(赤いユニホームが本学)

節目を迎え、新磨ぎが

江別市民音楽祭に参加

吹奏楽団

今年度、大勢の新入団員を迎え一挙に五十人を越えるサークルとなった吹奏楽団は、大学行事をはじめ、様々な分野で活躍している。今年の活動は、まず四月の新入生歓迎コンサートに始まり、六月中旬には第七回大学...



文京台地域家族運動会で

賞々の全国三位

連勝記録も14に

軟式庭球

団体戦において道内大学の覇者となっている本学軟式庭球部は、今年もめざましい活躍が相次いだ。また、団体戦の連勝記録も着実に更新し、現在十四連勝となっている。天理大学について全国第三位...

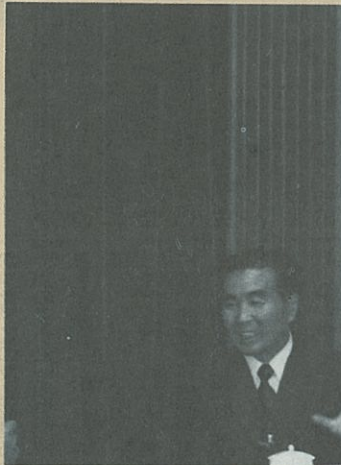
「博物館実習」の特殊講義

プレゼントの箱をあけるような気持ち

平岡 恵子

学芸員課程での最大の山は「博物館実習」という講義にある。まるで理科室のような教室で専門教員の講義や実習。土器製作や写真資料整理などを行うのである。そのような二年間の講義から、教員の講義にスポットをあけて述べてみようと思う。その中に、特殊講義とあって校外の方によるものがある。昨年は講義三回、講演一回、それに加えて夏季集中講義があった。講義は、北海道開拓記念館の三野紀雄氏「資料の受入と保管」、中村資氏「学芸員の業務」、アイヌ民族博物館の伊藤裕満氏「ユーカーラの記録と保存」と題して行われた。普遍的講義とは違った感じがして、次には何がと...

高橋良治氏



高橋良治氏の講演

このように足早であるが述べてきた。これは外から刺激を受けるという意味において大変プラスになった。自分を信じ、物事に対する洞察力を養い、未来に必要なのだと考えさせられ、改めて足元を指されたような思いである。気持ちの方が先走りをして、文字の方がついていかないと、少し私言が伝われば幸いだと思ふ。(人文学部 人間科学科四年)